



ずっと通い詰めている田ノ原湿原でお気に入りのシラカバの木を撮影。写真はSNSで公開し、動画で撮影方法を配信している。旅やアウトドアに関することなど、ブログの執筆も幅広く行う。

みんなはどう暮らしてる?

Interview

ナカノの暮らし

ここ中野市には多様な人が暮らし、働いています。進学などで県外に出て、またここに戻ってくる人もたくさんいますが、そんなみんなは、何をどんなふう楽しんでいるのでしょうか。中野市で暮らす20代・30代の6人に会ってきました。



「中野市をベースにすると、山へのアクセスがいい。ちょうどいい場所だなんて思います」

風景写真家と看護師のふたつの顔を持つ横田進士さん。写真にのめり込むようになったのは4年ほど前、ワーキングホリデーでカナダに行ったことがきっかけだった。

「カナダの雄大な自然とそれを写し取った風景写真にどっぷり浸かって、自分の中の何かがガラッと変わりました。自然の中に自ら出向くことや芸術作品をつくることの大切さを学ぶとともに、いままでは自分ではどほどの自然の宝庫の中に暮らしていたの

かと地元の魅力にも気づいたんです」
横田さんの写真には自身が風景の一部になって登場するものも多い(目次ページ参照)。自然と人間が共存する忘れがたく美しい風景は、観る者一人ひとりに、それぞれの物語を語りかけてくるようだ。北信州の山々はもちろん、テントを担いで北・中央アルプスに登り、山岳写真にも挑戦する。中野市をベースにすると、山へのアクセスがいい。ちょうどいい場所だなんて思います」。

海外のソフトウェア会社から画像編集ソフトのPR活動に関する仕事も請け負っていて、忙しいのだがすごく楽しそう。「写真で誰かの役に立てることがうれしい。山ノ内町の旅館で働いていたとき、みんながハッピーで利益を生めるのがビジネスだと教えてもらったんです」。いずれは写真の仕事を中心に、旅館業を組み合わせたのが夢だと言う。「中野市で宿をやるなら、ここだけにしかない新しい何かを発掘したい。それをいままも探しています」。

上/志賀高原の田ノ原湿原にて撮影。「何度も撮影に来ている挑戦の場所。冬が一番好き。雪が降ると本当にきれいで、無になるから」
下/横田さん撮影の秋の高社山。「登るたびに、自分たちはなんている山を持っているんだろ、と誇りに思う」

風景写真家／看護師
よこた しんじ
横田進士さん

#山登り#自然#風景
#写真好きな人と繋がりたい

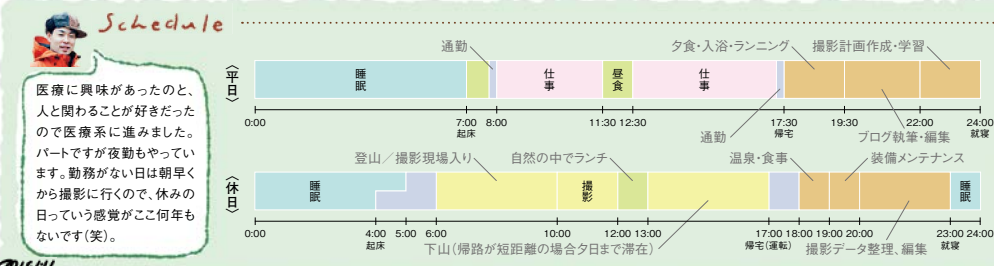
profile

1989年生まれ。中野市篠井育ち。風景写真家、看護師。島根大学を経て須坂病院へ。20代半ばにカナダに滞在し、風景写真と恋に落ちる。帰国後に本格的に写真の道へ。湯田中温泉街で旅館業の経験もあり。



©Shinji Yokota

来々来



医療に興味があったのと、人と関わるのが好きだったので医療系に進みました。パートですが夜勤もやっています。勤務がない日は朝早くから撮影に行くので、休みの日っていう感覚がここ何年もないです(笑)。